

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】(小学校用)

都道府県名

福井県

I 学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	鯖江市神明小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	3	3	3	2	1	17	26
児童数	80	84	83	82	94	72	1	496	

II 研究の概要

1. 研究主題

確かな学びを培う

— 学びの道すじを大切にした学習指導のあり方 —

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1・2年生 国語  
全ての学習の基礎となる教科であるため
- ・ 3年～6年生 算数  
児童の理解度に差が出やすい教科であるため
- ・ 4年～6年生 理科
- ・ 6年生 社会  
これまでの研究成果と児童に対する実態調査の結果から、実施学年・教科の枠を広げ、研究に取り組むため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>○テーマ 確かな学びを培う — 学びの道すじを大切にした学習指導のあり方 —</p> <p>○仮説 学力を単に「読み」「書き」「計算」のみでなく、学習や活動を通して身に付けていく考え方や学び方・意欲も含めて捉える。そして、子どもたちが主体となって学習する中で確実に定着していくものであると考える。そこで、①基礎基本の定着 ②指導に生きる評価 ③感動のある授業の3点を研究課題として実践を進めることで主題に迫ることができると考える。</p> <p>○研究内容・方法 本年度は、基礎・基本の定着を図るため児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の充実に視点を当て、指導方法・指導体制や学習集団の編成を中心に研究実践を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少人数・TT指導の工夫</li> <li>・ ねらいを明確にした授業実践</li> <li>・ 振り返り活動を取り入れ、学びの過程を大切にした学習</li> <li>・ 教材教具の開発</li> <li>・ 補充学習</li> </ul>
--------	--

平成15年度	<p>○テーマ 確かな学びを培う — 学びの道すじを大切にした学習指導のあり方 —</p> <p>○仮説 ①基礎・基本の定着 ②指導に生きる評価 ③感動のある授業の3点を研究課題として実践を進め主題に迫る。 育てたい力(評価規準)を1時間ごとに明確に焦点化し指導方法を工夫改善することで指導と評価の一体化が図られ確かな力が身に付いていく。また、「め</p>
--------	--

あてをつかむ」から「振り返る」の学びの過程を大切にすることで次への意欲を高め、新しい学びを創っていく意欲に繋がっていくと考える。

○研究内容・方法

- ・指導と評価の一体化による個に応じた指導の充実
- ・少人数・TT指導の工夫改善
- ・算数的活動の充実
- ・発展教材の工夫
- ・周辺学校との協力（研究協力・小中連携）

平成16年度

○テーマ

確かな学びを培う

— 学びの道すじを大切にした学習指導のあり方 —

○仮説

① 基礎・基本の定着 ②指導に生きる評価 ③感動のある授業の3点を研究課題として実践を進め主題に迫る。

児童が授業の中で「できた」「分かった」「楽しい」といった成就感や達成感を感じ、意欲的に取り組むことで確かな学びは培われると考える。

○研究内容・方法

- ・感動のある授業づくりー「分かった」「できるようになった」「すごい」といった感動を味わうことのできる授業づくり
- ・教具の工夫
- ・小中連携
- ・算数的活動の充実
- ・指導形態の工夫

(3) 研究推進体制

研究推進委員会の下に、協力的指導研究部会と少人数研究部会を設け、縦の繋がりを重視して研究に取り組んでいる。また、成果の普及を目的として、市内の小中学校の教員と共同して研究にあたっている。特に、本年度は、国語と算数の教科において、福井大学の教授に専門的な指導を仰いでいる。

III 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

今年度は、個に応じた指導の充実を図るために、

- 指導と評価の一体化
  - 理解や習熟の程度に応じた学習集団の編成と発展教材の開発
  - 思考を深めたり広めたりする算数的活動の充実
  - TTによる効果的な指導のあり方
- の4点に特に視点をあてて取り組んだ。

(1) 指導と評価の一体化

- ① レディネステストによって児童のつまづきや定着の度合いを把握し、児童への対応を考慮した指導過程を工夫したり、学習集団を編成（習熟度別・問題解決の速さ別・課題別等）したりしたこと
  - ② 評価補助簿や児童の自己評価カード、授業感想によって児童の育ちを見取り、不十分な児童に対しては補充学習を行ったり、指導法を改善したりしたこと
  - ③ 1時間1時間の重点評価項目と評価規準を設定し、単元全体の中に位置付けることで、ねらいを明確にした授業を実践したこと
- こうした手立てによって、一人一人の学習状況を的確に把握し個に対応した指導を行うことができた。そのことによって、個々の児童の学力が高まってきている。

<例1> 3年「あまりのある割り算」

観 点	学習はじめ	学習終わり
数学的思考	12%	6%
表現・処理	10%	3%
知識・理解	10%	8%

※ 数字は評価Cの児童の全体に占める割合を示す。

<例2> 観点別評価Cの全体に占める割合の昨年度と今年度の比較

2年 国語

観 点	昨年度	今年度
関心・意欲・態度	2%	0%
話す・聞く能力	6%	3%
書く能力	4%	3%
読む能力	12%	4%
知識・理解・技能	12%	6%

3年 算数

観 点	昨年度	今年度
関心・意欲・態度	2%	3%
数学的な考え方	12%	8%
表現・処理	4%	4%
知識・理解	8%	4%

4年 算数

観 点	昨年度	今年度
関心・意欲・態度	8%	0%
数学的な考え方	14%	7%
表現・処理	2%	3%
知識・理解	5%	3%

5年 算数

観 点	昨年度	今年度
関心・意欲・態度	4%	2%
数学的な考え方	16%	6%
表現・処理	5%	3%
知識・理解	6%	6%

6年 算数

観 点	昨年度	今年度
関心・意欲・態度	0%	0%
数学的な考え方	6%	8%
表現・処理	3%	3%
知識・理解	4%	6%

(2) 理解や習熟の程度に応じた学習集団の編成と発展教材の工夫

昨年度は2段階でのコース別学習がほとんどであったが、今年度は単元によって、3段階でのコース別(習熟度別)学習を取り入れた。一番下位のグループは、復習やヒントを多くしてスモールステップでの指導、中位のグループは自力解決に時間を十分取っての指導、上位のグループは発展学習を取り入れての指導を行った。

下位のグループの中には、前学年の学習内容に立ち返らなければならない児童もおり、3段階に分けたことで、より個に応じた指導が可能になった。発展学習については、3・4年4単元ずつ、5年7単元、6年3単元で実施したが、解決できる範囲での困難を設定することで、チャレンジ精神旺盛に意欲的に取り組む姿が見られた。また、解決の楽しさを味わったことによって、算数が好きになってきた児童も増えている。

<例> 4年 「めざせ! 割り算名人」単元末テストでの通過率

下位グループ	74%
中位グループ	86%
上位グループ	91%
全体	89%

全国平均80%(市販テスト)

(3) 思考を深めたり広げたりする算数的活動の充実

算数的活動が単なる楽しい活動に終わるのではなく、児童一人ひとりの確かな学びを培うものとなるためには、各場面での算数的活動のもつ意義や効果を的確に捉え、且つ、児童の実態に即したものでなくてはならない。このような視点にたつて、本校では、単元全体を見通してどこでどんな算数的活動を取り入れるかを検討し、位置づけている。

<例> 6年「立体の不思議」

第一次(学級内の等質グループによる少人数学習)

- ① 基本的な立体に似た形を身の回りから見つける。 \_\_\_\_\_ 体験的な算数的活動
- ② 直方体や立方体の特徴を調べる。 \_\_\_\_\_ 調査的な算数的活動
- ③ 直方体や立方体の展開図のかき方を知り、箱を作る
- ④ 決められた面の厚紙で直方体や立方体を作る。
- ⑤ 決められた長さのひごで直方体や立方体を作る。
- ⑥ 直方体や立方体の見取り図を書く。

作業的な算数的活動

第二次(学級を解いた習熟度別学習 チャレンジコース1の場合)

- ⑦ 直方体の面や辺の垂直と平行の関係を調べる。 \_\_\_\_\_ 探求的な算数的活動
- ⑧ 角柱・円柱の特徴を調べる。 \_\_\_\_\_ 調査的な算数的活動
- ⑨ 立方体の展開図で垂直や平行の関係を調べる。 \_\_\_\_\_ 探究的な算数的活動
- ⑩ 立方体のいろいろな展開図をかいたり作ったりする。 \_\_\_\_\_ 発展的な算数的活動
- ⑪ 他の立体の展開図をかいたり作ったりする。 \_\_\_\_\_

本単元の場合、⑩⑪が思考を深めたり広げたりする算数的活動と位置づけた。この学習の中で、子どもたちは、既習事項を生かして新たな課題にチャレンジする中で、考えることの

の楽しさや新しいことができた喜びを味わうことができた。このような活動を積み重ねていくことによって、少しずつではあるが、考えることの大切さを知ったり好きになったり、算数への意欲・関心が高まっている児童が増えてきている。

#### 算数学習に対する満足度

学 年	よく分かる		楽しい	
	昨年度	今年度	昨年度	今年度
3 年	73%	80%	75%	83%
4 年	71%	80%	71%	80%
5 年	81%	90%	73%	82%
6 年	79%	88%	72%	81%

※数字は該当学年全体の児童数に対する「分かる」「楽しい」と答えた児童の割合を示す。

## 2. 今後の課題

- ・各単元における指導内容を吟味し、より個に応じた指導計画を組み立てる。
- ・児童一人ひとりが「できた喜び」や「分かる喜び」「学ぶ楽しさ」を味わえる授業づくりを追究する。
- ・算数的コミュニケーション力が高まる授業の工夫をする。
- ・学力の評価方法の工夫・改善をする。

## IV 学力等把握のための学校としての取組

- 1 学習に対する満足度調査
  - (1) 調査の目的  
児童が学習内容が理解できたか、学習が楽しかったかを知り、指導に生かす。
  - (2) 実施時期  
毎時間、学期ごと（児童の振り返り、児童に対する意識調査）
- 2 漢字力・計算力調査
  - (1) 調査の目的  
該当学年の漢字や計算の定着率をみる。
  - (2) 実施時期  
毎週1回、毎時間
- 3 学力調査（CRT）
  - (1) 調査の目的  
国語と算数について、観点別に到達度をみる。
  - (2) 実施時期  
年度末
- 4 絶対評価における観点別A・B・Cの全体に占める割合の変化調査
  - (1) 調査の目的  
観点別A・B・Cの占める割合の変化を比べることで、Cの児童に対する指導の手立てを講じることで、Cの児童の学力向上を図る。

## V フロントアスクールとしての研究成果の普及

- (1) 研究会
  - ・15年8月11日 鯖江市健康福祉センター  
学力向上フロンティア協力者会議  
市内の研究協力者6名と福井大学教授黒木先生、三好先生を交えての国語算数の研究会、授業研究会
  - ・15年10月1日 神明小学校  
学力向上フロンティア協力者会議  
公開授業に向けての授業研究会
  - ・16年1月13日 神明小学校  
学力向上フロンティア協力者会議  
次年度の取り組みについて
- (2) 学力向上フロンティアスクール公開授業 神明小学校
  - ・15年11月4日 参加者数 130名
- (3) 紀要の発行 3月上旬

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校

【学校規模】       6学級以下       7～12学級  
 13～18学級       19～24学級  
 25学級以上

【指導体制】       少人数指導       T. Tによる指導  
 一部教科担任制       その他

【研究教科】       国語       社会       算数       理科  
 生活       音楽       図画工作       家庭  
 体育       その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無